

「カエルシリーズ」製品別 余分な水分を取り除く方法 (湿り気味の場合)

自然にカエルSの場合

ふたカバー 本体のフタ部分は取り外しておきます。

ふたカバー

本体正面 (ハンドル側)

背面から日光

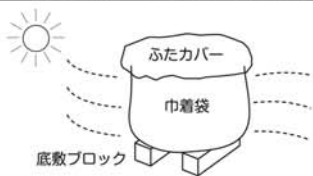
本体側面から見たイメージ

※処理機の中のチップ材は中心部をかくはん軸あたりまで廻り、内壁側にチップ材を盛り上げるようにすると水分が抜けやすくなります。チップ材の上が乾燥してきたら、全体をかくはんし、下のチップ材を上にもってこるようにしてください。

ル・カエルの場合

チップ材の状態に合わせて水分が多めのときに…

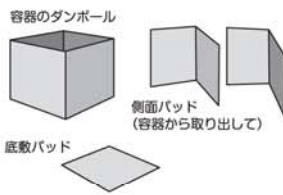
容器から巾着袋を取り出して、干します。虫よけにふたカバーをして、底敷ブロックを利用して地面との間にすき間を空けて空気が通りやすくします。



生ごみ0(ゼロ) トライアルキットの場合

定期的に(2週間に1回程度)

またダンボールに染み込んだ水分も同様に発散させましょう。



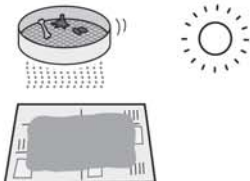
ふたカバー

本体ごと干してもO.K. 本体ごと干すときはフタセットを取り外した状態にして、虫よけのためのふたカバーをかぶせます。

「カエルシリーズ」共通 余分な水分を取り除く方法 (ベタベタ・だんご状態)

常にベタベタの状態、手でつかまなくてもだんご状態になっていたり、害虫が発生してしまい、駆除する場合。

チップ材を新聞紙やビニールシートの上に広げて1日~2日間水分を発散させます。乾燥させたチップ材を3~5ミリ程度の「園芸用の金網」を使ってフレイにかけ、未分解の生ごみを取り除きます。フレイを通して落ちたサラサラのチップ材を再度利用します。※戻す際に未分解の生ごみも戻し、分解処理を再開します。



旅行などで、長期間利用しない場合

- 家を留守にする 2~3 日前から生ごみの投入を控え、かきませだけを多くしてお出掛け下さい。
 - 2~3 日位である程度、生ごみが分解されます。
 - 旅行から戻って来た時に多くかきませ、空気を充分に取り入れてやれば、通常通りお使い頂けます。
- 又、チップ材の表面が白いカビ状になっている事もありますが、かきませれば消えてなくなります。
- 一ヶ月以上使用しない場合は、「チップ材の交換」の要領で、チップ材から未分解のものを取り出し、残りのチップ材を不織布製の巾着袋に移して保管することで、後日またははじめからお使い頂けます。

予備のチップ材の保管

予備の交換用チップ材は、雨のあたらない風通しの良い場所や日の当たらない温度変化の少ない場所で保管することで1年以上保管可能です。



【保存版】完全!!「カエルシリーズ」使いこなしガイド

「カエルシリーズ」を安心して使い続けていただくためのガイドです。処理器といっしょに保管してご参照ください。

「カエルシリーズ」をより上手に使うには、チップ材の状態に気をくばることが大切です。かきませるときによく観察しましょう。下記のような状態がみられたら注意信号。できるだけ早く対処してトラブルを避けましょう。

害虫(ダニ・ハエなど)のトラブルには 次ページ以降でくわしく

こんなときには要注意	状態解説・対処のしかた、改善方法
<p>チップ材がベタつき・ダマ状態になってきた</p> <p>チップ材の色が暗い色になってきて、かき混ぜが重くなった。</p>	<p>➡ チップ材の水分が多すぎます。</p> <p>① 野菜類だけの投入がほとんどで、微生物の活動が弱まり、水蒸気の発散が行われにくい状態が続いています。</p> <p>➡ 先ず、チップ材を1日~2日程度日光浴させ、湿り気を除いて、サラサラ状態にする必要があります。温度が上がれば、炭水化物、タンパク質系の生ごみも入れると活性化につながります。使用済み天ぷら油・米ヌカ・きな粉・天かすなどを入れて、瞬間的に微生物を活性化させます。</p> <p>② かくはん(かきませ)不足から、チップ材の中に水蒸気がたまり、濡れ気味になっています。</p> <p>➡ ①の方法で、いったん正常な状態に戻し、以降はかきませをできるだけ多くします。</p> <p>③ 投入する生ごみの水分を良く切らないで投入しています。</p> <p>➡ ①の方法で、いったん正常な状態に戻します。生ごみの水分はいったん新聞紙にくるんで水分を少なくしたり、良く水分を切って投入する習慣をつけましょう。</p>
<p>チップ材の温度が上がらない</p> <p>生ごみを投入してかきませてもチップ材が温かくなってこない(ほんのり温かい程度が正常)</p>	<p>➡ 微生物のはたらきが弱っています。</p> <p>① チップ材の水分が多すぎる場合①~③と同じ要因が考えられます。</p> <p>➡ チップ材の水分が多すぎる場合①の方法で、チップ材を正常なはたらきに戻しましょう。</p> <p>② チップ材がサラサラすぎて、乾燥気味の場合</p> <p>※ チップ材を手ですくって指の間から落ちるときに土ほりか立つ状態は乾燥気味です。</p> <p>➡ 水をコップ2~3杯程度入れて良くかき混ぜます(少し色が付く程度湿らします)</p> <p>①ポイント</p> <p>チップ材の温度は投入する生ごみの種類で変化します。肉類や脂肪・糖分の多いものを入れた場合は温度が高く(35度前後)なり、野菜類などが多く全体的に投入量が少ない場合は低く(外気温に近い状態)なります。</p>
<p>分解が遅い気がする</p> <p>処理機内のチップ材及びゴミの量が増えて来た気がする</p>	<p>➡ 微生物のはたらきが弱っています。</p> <p>① 日頃の生ごみの投入量によりますが、分解が遅いと感じたその時が交換する時期と考えましょう。</p> <p>➡ チップ材の交換手順に従って交換してください。</p> <p>※ 逆に通常の交換時期を過ぎていても問題なく分解できている場合はそのまま使用できます。</p> <p>② 生ごみを細かくして投入していないとき</p> <p>➡ 常に細かくして投入することを心がけてください。 案にかき混ぜができ、分解も早まります。</p> <p>③ 生ごみの投入量が少ない</p> <p>➡ 定期的に、使用済み天ぷら油・米ヌカ・きな粉・天かすなどを入れて、瞬間的に微生物を活性化させます。</p> <p>④ チップ材の状態が悪い</p> <p>➡ チップ材の水分や温度を確かめて、それぞれの状態にあわせて対処しましょう。</p>

ダニが発生

「見た目」「状態」の特長

チップ材の表面や容器、処理機の周辺に綿ボコリのような・おがくすのような白い物が発生。よく見たら小さな粒みたいなモノの集まりで動いているけど…?

ダニの特長：
0.3～0.8mm 位の白く小さな動く物



「市販の殺虫剤※1,※2」をふたカバーの上、処理器内壁とチップ材表面にスプレーします。瞬間チップ材にもぐってしまいますので、気にならなくなるまで同じ作業を適宜に繰り返してください。設置場所周辺、特に処理器の真下をよく拭きとって、スプレータイプの防虫剤をまいておくのも有効です。

発生主な発生原因 設置場所付近にいたダニが処理機の温度や湿度を好んで集まり、増えたことが考えられます。

状態ごとの対処方法

チップ材の状態がよくない（水分が少なすぎ、または多すぎる）ときに、生魚や内臓、焼き魚の骨や皮を入れた。	→	ナマ物は、小さ目に切って湯通ししてから投入し、全体的にチップ材がよくからむように良くかき混ぜます
外気温が高く湿度が多い時期（梅雨時期）に処理器内がムシ状態が続くとき	→	チップ材を 1 日～ 2 日程度日光浴させ、湿気を除きサラサラ状態にしてください。
チップ材が乾燥気味で、微生物が正常に働いていないとき 1) 使い始めて 10 日位迄で発生 2) 継続使用中で発生	→	ガラスコップ 2～3 倍位（色が濃くなる程度）の水を補充しながら良くかき混ぜ、微生物を活性化させます。使用済の天ぷら油・米ヌカ・きな粉や天かすなどを入れて、瞬間的に微生物を活性化させます

再発防止のために ●チップ材は、乾燥気味の時は少し色が付く程度湿らした状態で使しましょう。 ●日頃、生ごみの水分を十分に切ってから入れ、かき混ぜを良くして、チップ材の中の水蒸気や炭酸ガスを抜いてやる事が大切です。 ●投入した生ゴミ全体にチップ材がまんべんなくからまるようにしましょう。 ●2 週間に一回程度（状態によってはよりひんぱんに）、チップ材を日光浴させ、湿気を除きサラサラ状態にしましょう。 ●通気性の良い場所、湿気の少ない場所に処理器を移してお使いください。

ハエが発生

「見た目」「状態」の特長

容器のまわりで常にハエが飛んでいる。容器の中にハエがいたり、チップ材の中で動く虫がいたりする。

ハエの生育過程：
卵が一週間位で幼虫（ウジ）になり、しばらくして外皮が硬化して殻の中でサナギになる。サナギになってから 2 週間位で殻を破って羽化する。



成虫、蛆（ウジ） 場合：「市販の殺虫剤※1,※2」をふたカバーの上、処理器内壁とチップ材表面にスプレーします。サナギの場合：「殺虫剤」が効きません。また全てをより分けて取り出すのは難しいので、チップ材を全量とり出して、ビニール袋に入れて密閉し、酸欠状態にすることによって死滅させます。（この間チップ材を全量交換して継続使用します。）

主な発生原因 ハエの発生には主に次の 2 つの場合があります。
1) 卵が生野菜などに付着していて、それがそのまま投入されてそのまま生育してしまった場合
2) 処理器の中にたまたまハエが入り込み、卵を産みつけて生育してしまった場合。
いずれの場合もチップ材の微生物が正常に働いていれば生育ができないのですが、下記のようなチップ材の状態がよくない場合は生育が進んでしまいます。このため処理器周囲にハエが常に飛び回っていたり、処理器の内部にハエの成虫や幼虫（ウジ）などを見つけたときは、さらにチップ材の中のほうに生育途中の幼虫やサナギがいると判断したほうがよいでしょう。

状態ごとの対処方法

チップ材が湿り気味のとき（ダマ状態・だんご状態）	→	チップ材を 1 日～ 2 日程度日光浴させ、湿気を除きサラサラ状態に戻しましょう。サラサラになった段階で、使用済の天ぷら油・米ヌカ・きな粉や天かすなどを入れることで活性化させます。
投入した生ゴミ全体にチップ材がまんべんなくからまっていなかったとき	→	日頃のかくはん（かきまぜ）が大切です。投入するたびごと、生ゴミ全体にチップ材を良くからめる習慣をつけましょう。

再発防止のために ●野菜は湯通しする事で、卵を死滅させる事ができると同時に、分解促進にもつながります。 ●また生ごみ投入の際「ふた」の開閉はすみやかに、ハエなどの侵入に気をつけます。 ●放置しておいた生ゴミは、卵が産みつけられている可能性があるため入れないように心掛けます。



殺虫剤について ※1 市販の殺虫剤がチップ材（微生物）に及ぼす影響について
現在市販されている家庭用殺虫剤（スプレー式）のほとんどで使用されている成分は、チップ材の微生物に影響を及ぼすことはありません。ただし、使用上の注意に従って用法・容量を守ってお使いください。

※2 市販の殺虫剤を使用したチップ材を堆肥として利用した場合の安全性について
市販の殺虫剤を使用したチップ材を正常な状態へ回復させるための過程（天日干しによる乾燥および一定期間の養生）において、市販の殺虫剤の成分がほとんど無効化されますので、作物への影響など特に安全性の問題はありません。

ニオイが発生

最近、処理機の中からニオイがする…

チップ材の状態が悪くなっている可能性があります。

発生主な発生原因 ニオイの発生は下記のうちのいずれかの場合が考えられます。それぞれに対応した処置をしましょう。

状態ごとの対処方法

生魚や内臓、又は焼き魚の骨や皮を入れて一日位経ったとき 酵臭	→	通常通りかき混ぜをしっかりと行っていると、2～3 日位で分解を終わりますので、臭いはおさまります。どうしても我慢できない場合は、ニオイが気になる間、雨のかからない外に処理器を出すかよいでしょう。
チップ材が濡れてベタベタしているとき 酸性臭 ※一番多いケース	→	まず、チップ材を 1 日～ 2 日程度日光浴させ、湿気を除いてサラサラ状態にする事が必要です。
臭いの強いゴミを入れたときの瞬間的な臭い	→	コーヒーがらや細かくした柑橘類皮を入れたり、重曹を大さじ 2 杯ほどふりかけてよくかきまぜると、ニオイをやわらげる効果があります。

再発防止のために ●チップ材は、乾燥気味の時は少し色が付く程度湿らした状態で使しましょう。 ●日頃、生ごみの水分を十分に切ってから入れ、かき混ぜを良くして、チップ材の中の水蒸気や炭酸ガスを抜いてやる事が大切です。 ●投入した生ゴミ全体にチップ材がまんべんなくからまるようにしましょう。 ●2 週間に一回程度（状態によってはよりひんぱんに）、チップ材を日光浴させ、湿気を除きサラサラ状態にしてください。 ●通気性の良い場所、湿気の少ない場所に処理器を移してお使いください。

カビが発生

「見た目」「状態」の特長

チップ材の表面や容器の内壁、巾着袋の口付近にふわふわした綿ぼうしのようなものが…?

カビの特長：ふわふわしたたんぼぼの綿毛のようなものがとところどころにできます。



カビは特に害にはならないので、チップ材の上のできたものはすみやかに混ぜ込んでしまいましょう。また、容器についてしまっているものは拭き取り除去しましょう。

主な発生原因 たまたま入り込んだカビの菌が、チップ材のかきまぜ不足などでそのまま育ってしまうことがあります。

状態ごとの対処方法 処理器の表面などにも発生してしまった場合はきれいに拭き取りましょう。ひんぱんに発生するようなら、設置場所を工夫しましょう。（湿度の高くない、風通しの良い場所）

再発防止のために ●日頃のかくはん（かきまぜ）不足から発生することがほとんどです。 ●また何日かかきまぜをしなかったときにおこることがあります。 ●少し見つけた時点でよくかきまぜて混ぜ込んでしまえばすぐなくなります。

開封前のチップ材にカビ？

ごくまれに、開封前の交換用チップ材の袋の内側に水蒸気とともにカビ状のものが付着している場合があります。これはチップ材が一時的に温度や湿度が高い状態になり、微生物が一部活動を始め、まわりのオガクズなどを分解したために発生する有用菌で、無害なものです。→ すぐに使用する前によく混ぜ込んでしまえば、生ごみ分解の働きに全く問題ありません。→ 予備として保管する際は、一度ビニール袋の上から中身が混ざるようによくもんでから、風通しの良い雨のあたらない日陰に保管しましょう。